

東京税理士会西新井支部支部長賞

「、もしも、のために」

足立区立 第四中学校

三年 金澤 みつば

令和元年、台風十九号（ハギビス）が日本に上陸し、甚大な被害をもたらした。私の母は当時公務員として働いていたため、近くの中学校で避難所の運営を行っていた。そこでは毛布などが配られた。丈夫な建物に避難が出来るという環境は災害時、安心できる要素の一つだ。

さらに、福祉避難所では高齢者や障がい者、妊産婦などの特別な配慮が必要な方々への配慮がされている。紙オムツなどの物資に加えて、手すり、仮設スロープなどの設備、職員も多く配置されている。

このような避難所は東京都で三千九百二十七カ所もある。うち、福祉避難所数は千四百二十九カ所である。その一つ一つの避難所に毛布、食料、飲料水、粉ミルク、さらには発電機などの災害救援物資が備蓄されている。また、インフラの停止や地方公共団体の機能が低下していくため、国が支援物資を供給する「プッシュ型支援」がある。実際、令和元年東日本台風、熊本地震などではこのような国からの支援があった。

これらの災害時への対策は、税金のおかげで出来ている。災

害時、私達が使用できる物資や設備の費用は、「地方交付税」が財源とされている。国の歳出の十四・三パーセントが地方交付税交付金等を支出し、地方団体の財政力を調整してくれている。そのため、私達は格差のない公的サービスをうけることが出来ている。

増税が辛い。確かに、物価高に加えて増税が重なり、私も家も負担をかかっている。しかし、しっかりと私達への見返りがあるという一面も見逃してはいけない。未だに、コロナウイルスは収束していない。つまり、人が密集している場合、集団感染する可能性があるということだ。このような事を防ぐためにも、マスクなどの備蓄や、パーテーション増設にも税金が使用されている。

これまでの内容は、^〆もしも^〆の時に、活躍する税金の使われ方だ。そのため、実際に体験してみないと、私達が払っている税金の一部への必要性をかんじなくなってしまうこともあるのではないか。しかし、台風が頻繁に発生し、首都直下型地震、南海トラフ地震が高確率で起きるといわれている現在では、^〆もしも^〆のために使われている税金が、自分、そして周りの人の命、生活をつなぐ重要な事だと感じた。

税を軸とした、この環境に感謝していいこうと思った。